

## 国際情報化時代における EC 統合とヨーロッパ諸国の 社会的、経営・経済的变化

Die Europäische Gemeinschaft in der internationalen informierten Zeit  
und die gesellschaftlichen, betriebswirtschaftlichen und ökonomischen  
Veränderungen in den europäischen Staaten

総括研究員：遠藤 一久

分担研究員：石原 肇、川口八洲雄、中西 基（全員経営学部）

本共同研究の計画

（その必要性）

- (1) 実用性が高く、かつ社会的ニーズの大きい総合的課題である。わが国において社会的に極めて関心が高く、実業界にも益するところは大きい。
- (2) 学会において注目されている重点的総合研究課題である。広く社会科学の各学会で現在もっとも注目されている課題である。
- (3) 新規性または発展性がある総合研究課題である。現在、極めて新規で、今後の展開が注目されている。
- (4) 将来性のある萌芽的総合研究課題である。このテーマは現在、学問的によやく緒についたばかりで、今後の展開が期待される。
- (5) 学際的領域にある総合研究課題である。広く社会科学の各領域の学際的共同研究を期待することができる。
- (6) その研究課題に興味を持つ研究者が本学に多くいて、豊富な研究成果が期待される総合課題である。本学には、直接、間接にヨーロッパの社会、経営・経済を研究対象にしている研究者は多い。

（その目的）

- (1) 本総合研究課題の目的と意義—1992年の EC 市場統合とその後の展開の研究は、我が国の実業界および学界において、その及ぼす影響からして、避けて通ることのできない重要課題である。さらに歴史的にみても、EC 統合は、極めて興味深い問題である。この課題を解明することの現実的、学問的意義は、極めて大きい。
- (2) 本総合研究課題の将来への展望—上述の意義を有する本総合研究課題は、早急な研究の必要に迫られているテーマである。しかも、この課題は、総合研究によって実り多い成果を期待しうるものである。将来にわたって EC 統合の及ぼす影響は、ますます大きいものとなるのは確実であり、本研究の意義も高まるものと思われる。

なお、研究課題に関する最近の研究業績は次のとおりである。

- (1) W. フレーリックス著、大阪産業大会計研究室訳「現代の会計制度」第一・二巻、森山書店、1986・7.
- (2) 遠藤一久「西ドイツ貸借対照表指令法と正規の簿記の諸原則の意義」大阪産業大学論集74号、1989.
- (3) 石原 肇「貸借対照表指令法施行後における基準性原則の問題」大阪産業大学論集74号、1989.
- (4) 川口八洲雄「1985年貸借対照表指令法における商業帳簿の記帳に関する諸規定」大阪産業大学論集80号、1990.
- (5) 中西 基「現代会計情報理論とコンピュータ実務」大阪産業大学論集74号、1989. 因みに、西ドイツ貸借対照表指令法とは、EC 指令法のドイツにおける具体化である。
- (6) 宮上一男、W. フレーリックス監修「現代ドイツ商法典」（訳者・遠藤一久、石原肇、川口八洲雄、鈴木義夫、千葉修身）森山書店、1992.
- (7) W. フレーリックス著、遠藤一久訳・編「EC 統合と現代ドイツ経営経済学」（財生環研、1993.
- (8) 宮上一男、W. フレーリックス監修「現代ドイツ商法典」第2版、銀行貸借対照表を含む（訳者・遠藤一久、石原肇、川口八洲雄、鈴木義夫、千葉修身）森山書店、1993.

## 共同研究の進捗状況の総括（中間報告）

[1991年度]

- (1) 本総合研究課題の目的についての意思統一（討論）研究会を開催し、研究目標を、EC 指令のドイツにおける具体化である1986年施行のドイツ新商法典第3篇商業帳簿の全訳におき、「現代ドイツ商法典」（森山書店刊、1992年）として出版することとした。
- (2) 本総合研究課題の研究分担

総括研究員	遠 藤 一 久	ドイツ商法典第238～257条
分担研究員	石 原 肇	ドイツ商法典第258～271条
	川 口 八洲雄	ドイツ商法典第272～289条
		ドイツ商法典第316～324条
	中 西 基	コンピュータ会計に関する条文の研究 文献収集、整理と索引作成

[1992年度]

前年度に引き続き、「現代ドイツ商法典」の第二版の刊行に全力を集中した。遠藤が、1992年7月より、ドイツ・ヴェルツブルグ大学に赴き、フレーリックス教授と打合せを行った。銀行貸借対照表を含む第二版が、近く公刊される予定である。

さらに、W. フレーリックス著、遠藤一久訳・編「EC 統合と現代ドイツ経営経済学」が刊行されたことも、共同研究の大きな成果である。